

オオキンケイギク

＜キク科 多年草＞ 北米原産



【特徴】

花：開花期は5～7月
鮮やかな黄色の花で、
花びらの先は4～5裂する。
花の直径は、5～7cm

茎：高さ30～70cm
根本から多数の茎を伸ばして
株立ち状になる

葉：両面とも粗い毛がある

【繁殖方法】

種子、地下茎により繁殖する。
地面に落ちた種子は埋土種子集団（土壤中に発芽せずに
生存し続ける種子の集まりのこと）をつくる。
土壌中の種子は数年間生存することがあるため、ある年に
繁殖しなくても、翌年繁殖する可能性がある。

【防除方法】

5～7月に花が咲いたあと、たくさんの種子をつけますので、できるだけ種子がつく前に刈り取ります。
刈り取ったものは、刈り取った場所で2～3日天日にさらし、枯れたら袋に入れて処分します。
（その際、種子がついている場合は、周りに飛散しないように注意し、袋に入れて枯死させてください。）
オオキンケイギクがたくさん生えている場所の土には、たくさんの種子が含まれています。
土の移動により、種子を広げてしまわないよう、注意してください。

【県内の分布】

加賀から能登まで広く分布しており、手取川をはじめとする河川敷やのと里山海道、加賀産業道路等の道路
法面で確認されています。

【影響・被害】

オオキンケイギクは、河川敷や道路の法面に繁茂しており、河川敷固有の植物等の在来種との競合や
駆逐など、在来種に対して悪影響を与える恐れがあります。

オオハンゴンソウ

＜キク科 多年草＞ 北米原産



【特徴】

花：開花期は7～10月
黄色の頭状花で直径6～10cm
舌状花は10～14枚

茎：高さ1～3m
地下茎が横に走っていて群生する

葉：葉の裏にのみ短毛がある
下部の葉は長い柄がある
上部の葉は短～無柄

【繁殖方法】

種子、地下茎により繁殖する。
地面に落ちた種子は埋土種子集団（土壌中に発芽せずに生存し続ける種子の集まりのこと）をつくる。
土壌中の種子は数年間生存することがあるため、ある年に繁殖しなくても、翌年繁殖する可能性がある。

【防除方法】

7～10月に花が咲いたあと、たくさんの種子をつけますので、できるだけ種子がつく前に刈り取ります。
刈り取ったものは、刈り取った場所で2～3日天日にさらし、枯れたら袋に入れて処分します。
（その際、種子がついている場合は、周りに飛散しないように注意し、袋に入れて枯死させてください。）
オオハンゴンソウがたくさん生えている場所の土には、たくさんの種子が含まれています。
土の移動により、種子を広げてしまわないよう、注意してください。

【県内の分布】

主に河川敷や道路法面で生育し、安原川をはじめ、白山白川郷ホワイトロードでも確認されています。

【影響・被害】

全国的にみて、国立公園の湿原など自然度の高い環境に定着し、湿原植物などの貴重な在来植物との競合や駆逐など、在来植物に対して悪影響を与える恐れがあります。

アレチウリ



＜ウリ科 1年草＞ 北米原産



写真提供: 米山競一

【特徴】

花: 開花期は8～10月
葉と茎の間に直径1cmほどの黄白色の花をつける。
果実は長さ1cm程の楕円形で鋭い棘を密生する

茎: 粗い毛を密生したつるで、長さ数～10数mになる

葉: 径10～20cm

【繁殖方法】

種子により繁殖する。
大量の種子を生産し、一部は埋土種子集団(土壤中に発芽せずに生存し続ける種子の集まりのこと)をつくる。
土壤中の種子は数年間生存することがあるため、ある年に繁殖しなくても、翌年繁殖する可能性がある。

【防除方法】

夏に繁茂したあと、秋にたくさんの種子をつけますので、できるだけ種子がつく前に刈り取ります。
また、発芽期間の春～秋に複数回駆除を行うのが効果的です。
刈り取ったものは、刈り取った場所で2～3日天日にさらし、枯れたら袋に入れて処分します。
(その際、種子がついている場合は、周りに飛散しないように注意し、袋に入れて枯死させてください。)
アレチウリは、秋には枯れてしましますが、生えていた場所の土には、たくさんの種子が含まれています。
土の移動により、種子を広げてしまわないよう、注意してください。

【県内の分布】

荒地や土手、特に河川の肥沃地を好んで、生育・群生し、能登から加賀まで広く分布しており、犀川や梯川の下流域等で確認されています。

【影響・被害】

全国の河原や林縁で大繁茂し、在来植物との競合や駆逐などが懸念されています。他の植物に覆い被さり、それらの成長を阻害するなど、植物の多様性に悪影響を及ぼしています。また、飼料畑でも大発生して農業被害を生じています。

オオカワヂシャ



＜ゴマノハグサ科 1年～多年生草本＞
ヨーロッパ～アジア北部原産



【特徴】

全体が無毛

花：開花期は4～9月

淡紫色～白色の花を多数つけ、果実は球形。

花の直径は5mmほど

茎：高さは30～100cm

地中を横走する根茎から茎を直立させる。

葉：長楕円形～披針形

【繁殖方法】

種子、地下茎により繁殖する。

種子は風、雨、動物などにより伝播される。

【防除方法】

4～9月に花が咲いたあと、たくさんの種子をつけますので、できるだけ種子がつく前に刈り取ります。刈り取ったものは、刈り取った場所で2～3日天日にさらし、枯れたら袋に入れて処分します。（その際、種子がついている場合は、周りに飛散しないように注意し、袋に入れて枯死させてください。）オオカワヂシャがたくさん生えている場所の土には、たくさんの種子が含まれています。土の移動により、種子を広げてしまわないよう、注意してください。

【県内の分布（現在確認している場所）】

伊久留川河床（中能登町）、手取川下流河川敷（川北町、白山市）
河北潟干拓地及び周辺（かほく市、津幡町、内灘町、金沢市）

【影響・被害】

在来種との競合や駆逐など、在来種に対して悪影響を与える恐れがあります。
在来種のカワヂシャ（いしかわレッドデータブック絶滅危惧Ⅰ類）と交雑し、遺伝的な攪乱を生じさせる恐れがあります。

オオフサモ

＜アリノトウグサ科 多年草＞ 南アメリカのアマゾン川原産



【特徴】

花：開花期は6月頃
氣中に広がった葉の脇に1個ずつ付く。

茎：円柱状で太さ4～6mm
泥中又は水中で分岐しながらほふくして
1m以上に達する。
長さ10～30cmの緑色の茎を水上に出す。

葉：粉っぽい白色を帯びた緑色
長さ1.5cm以上の羽状
3～7枚ずつ車輪状に付く。

【繁殖方法】

雌株と雄株があるが、日本で確認されているのは雌株のみ。地下茎で栄養繁殖する。また、茎などの断片からも根が生えて、再生することもある。

【防除方法】

手作業による根からの抜き取り(できるだけ根や茎を残さない)、スコップ等を用いた低土の剥ぎ取り(根茎ごと)。

【県内の分布】

小松市及び内灘町において確認されています。

【影響・被害】

オオフサモは、池沼、溜池、河川、水路等に繁茂しており、河川敷固有の植物等の在来種との競合や駆逐など、在来種に対して悪影響を与える恐れがあるほか、水質の悪化や水流の阻害を及ぼす恐れがあります。